

- ②面 羽田増便・新宿駅上空850m飛行?
- ③面 職安通り・インパウンド街に变身
- ④面 神社仏閣が帰宅困難者の受け皿に
- ⑤面 新宿ハーフマラソン28日に号砲
- ⑥~⑧面 各地で盛況/新春賀詞交歓会



水道道路の拡幅も計画する西新宿3丁目西地区(左)



新宿の超高層マンションの今

甲州街道沿いのN T T本社ビルや新宿パークタワーなどに囲まれた西新宿3丁目西地区(約4.8㌔)。ここでは、巨大超高層マンションが建設される予定だ。65階2棟(高さ235㌔)のマンションを開発する計画で地権者の合意形成も進んでいる。来年度の都市計画決定、2022年度の工事着手、29年度の完成をめざしている。65階建ての階層は、昨年竣工した西新宿5丁目中央北地区の60階マンションを大きく上回り、国内では最高層の超高層マンションとなる。2棟併せた3,200戸の供給戸数も国内最大。「日本一」のマンション街が誕生することになる。

西新宿3丁目西地区

西新宿・超高層 65階2棟“街”出現 3200住戸 オフィス街に次々とタワーマンション

水道道路は拡幅

来年度にも都市計画決定

甲州街道沿い・N T T 約3千2百戸を開発する東日本本社ビルに隣接する計画が進行中だ。「西新宿3丁目西地区」では、地上(高さ約235㌔)と地下2階(高さ約15㌔)で、来年度の都市計画決定、2022年度の工事着手、29年度の完成をめざしている。事業協力者4階には事務所・生活支援施設、保育所などが入る予定だ。水道道路の幅員22㌔に拡幅。同地区の再開発事業に併せ、北側水道道路(約3㌔)の拡幅も計画している。水道道路の幅員は現在15㌔。これを22㌔へと拡幅していく。水道道路周辺には学校・子ども園施設が林立。道路拡幅により児童・園児の安全性に配慮した歩行者環境を実現していく。

再開発に向けた地権者の合意形成は進んでおり、昨年12月の段階で、土地所有者百36名のうち約85%、借地権者25名のうち約95%が都市計画に合意している。北東部には約4千5百平方㌔の広場を整備開発する超高層マンションは水道道路に面する北棟(延べ床面積18万1千8百平方㌔)、甲州街道に面する南棟(20万3千平方㌔)の2棟。周辺部ではビル開発が相次いでいる。十二社通りの隣接地・甲州街道と十二社通りの交差点部では今年1月、地上24階・地下1階建ての賃貸マンション・シェアオフィスからなる「TSI新宿タワー」がオープンした。1階は店舗、2階はシェアオフィス(87室)、3〜4階は企業や個人の物品を収納する貸し倉庫スペース、5〜24階が賃貸マンション(2,077戸)。同ビルは地権者である東京スタイルの親会社であるTSIホールディングスが、住宅メーカーである積水ハウスと共同で、マンション主体の開発計画を推進していた。

このほか北東部には約4千5百平方㌔の広場を整備。地区内の東西を結ぶ1・2歩行者デッキ(高さ2階には店舗階レベル)も設けられる予定だ。水道道路を幅員22㌔に拡幅。同地区の再開発事業に併せ、北側水道道路(約3㌔)の拡幅も計画している。水道道路の幅員は現在15㌔。これを22㌔へと拡幅していく。水道道路周辺には学校・子ども園施設が林立。道路拡幅により児童・園児の安全性に配慮した歩行者環境を実現していく。

また地区周辺部には学校や子ども園が林立しているにも関わらず、公園などのまとまったオープニングエリアがなかった。この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。「おいファンヤ」と新聞社を呼び、「ファンヤとは何だ」と、私どもと角突き合わせた時代でもあった。この住時・開市時代の創成エネルギーが、今日の新宿を生んだといっても過言ではない。今やこの時代のことを知る人も少なくなってきたが、池田さんは、その数少ない証人の一人だった。池田さんは、内溝、な表情と併せ、怒らせたら怖い人でもあった。弁舌さわやかで、大手企業から地域への協力を引き出すなど、地元では「先生」と言われるほどに慕われた。この繁華街にもヤミ市時代はあった。今日の商店街の繁栄は、こうした先人たちの創成期の働きがあった。

この2棟 このほか北東部には約4千5百平方㌔の広場を整備。地区内の東西を結ぶ1・2歩行者デッキ(高さ2階には店舗階レベル)も設けられる予定だ。

7階オフィスから変更 同地区はN T T本社ビル、新宿パークタワーなど超高層ビルに囲まれたエリアでありながら、再開発事業から取り残されていた。01年に「市街地再開発準備組合」が設立。当初は7階オフィスビルを主体とした事業計画だったが、リーマンショック後、この計画を白紙に戻した。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。

▼戦後日本の復興期は、戦災後に不法占拠した人々との地割りの争い。の歴史でもある。そこには強力団やテニ屋集団が居つき、その立ち退き交渉は、地元商店街理事長らの「強勇」がモノを言った。今日の新宿東口の発展の裏には、そんな歴史がある。その寄与した一人が先日亡くなった池田治幸氏だ。▼新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。

再開発に向けた地権者の合意形成は進んでおり、昨年12月の段階で、土地所有者百36名のうち約85%、借地権者25名のうち約95%が都市計画に合意している。

また地区周辺部には学校や子ども園が林立しているにも関わらず、公園などのまとまったオープニングエリアがなかった。この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。

この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。



このほか北東部には約4千5百平方㌔の広場を整備。地区内の東西を結ぶ1・2歩行者デッキ(高さ2階には店舗階レベル)も設けられる予定だ。水道道路を幅員22㌔に拡幅。同地区の再開発事業に併せ、北側水道道路(約3㌔)の拡幅も計画している。水道道路の幅員は現在15㌔。これを22㌔へと拡幅していく。水道道路周辺には学校・子ども園施設が林立。道路拡幅により児童・園児の安全性に配慮した歩行者環境を実現していく。

また地区周辺部には学校や子ども園が林立しているにも関わらず、公園などのまとまったオープニングエリアがなかった。この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。

再開発に向けた地権者の合意形成は進んでおり、昨年12月の段階で、土地所有者百36名のうち約85%、借地権者25名のうち約95%が都市計画に合意している。

また地区周辺部には学校や子ども園が林立しているにも関わらず、公園などのまとまったオープニングエリアがなかった。この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。

この計画を白紙に戻す。その後、マンションの主体の開発計画に直ぐなってきた池田治幸氏だ。新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。



甲州街道と十二社通りの交差点部のTSIタワー

秒読み 復興期は、戦災後に不法占拠した人々との地割りの争い。の歴史でもある。そこには強力団やテニ屋集団が居つき、その立ち退き交渉は、地元商店街理事長らの「強勇」がモノを言った。今日の新宿東口の発展の裏には、そんな歴史がある。その寄与した一人が先日亡くなった池田治幸氏だ。▼新宿南口にあった御大典ビル(兼野社)に移設して、今日の東南口広場が生まれた。その陰には市嶋敏三氏、若月市朗氏、安田善一氏(安田興一氏の父)、そして池田治幸氏ら、東口商店街振興組合の歴代理事長や副理事長の貢献があった。